尾參風土歌 下

明治廿四年一月六日調査

部目	記號	番號	全部冊數
雜門	千號	第參拾九番	弐

290
タ
1-2

愛知県有物品

依其國新見者名區殺
景又有不及筆者是偽
口碑者失之實而傳其偽
者亦不勝也矣吾友田中
正愼著登海風土記輯
美採出無所不君子掬

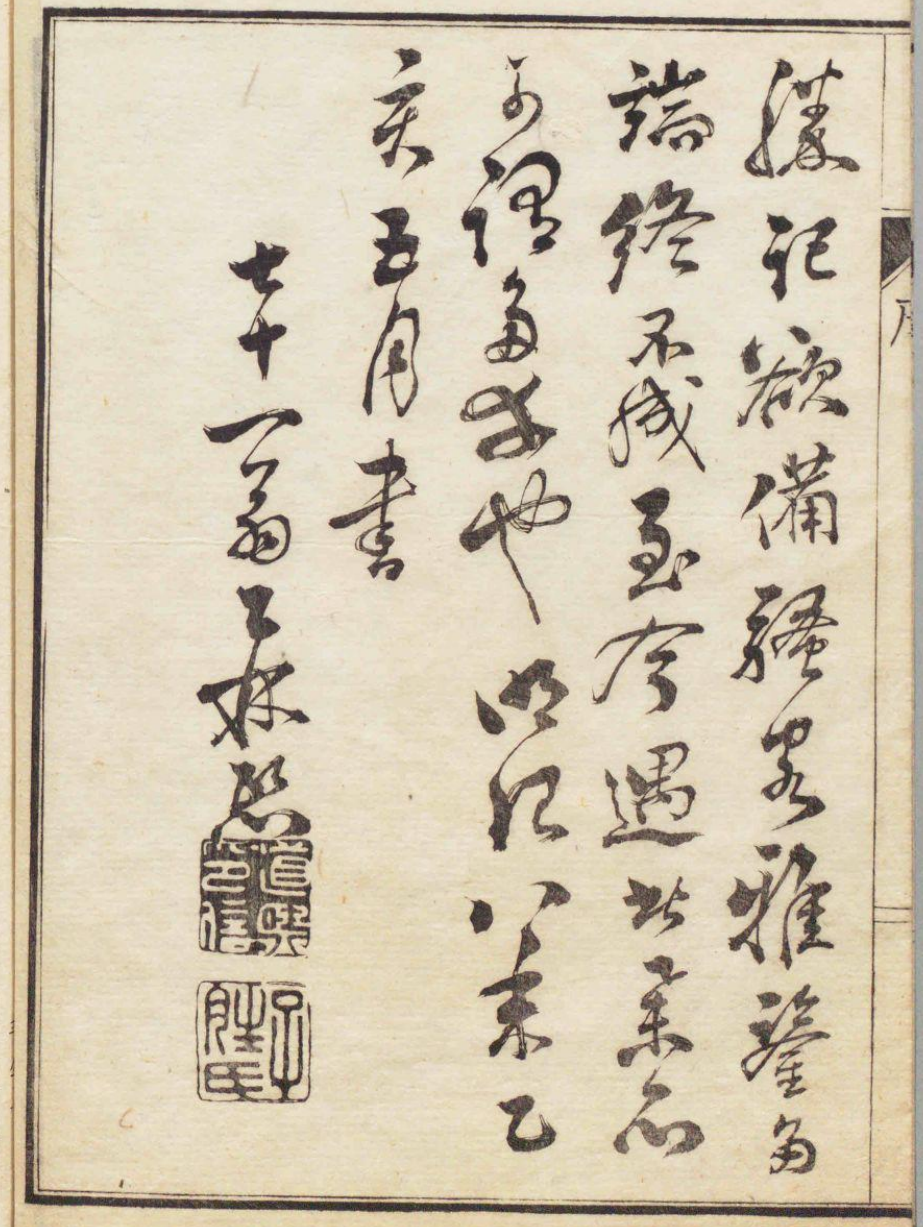
明治十年一月改
第二百五十九編
愛知県文化会館
昭54.11.12 和
264034
A290
ヶ
1-2

持統帝行幸之河國伊
良湖其古跡今猶存名御
津名馬等地名可確考矣
既縣居窮山遠江濱松彈
引馬不知其據隙攀歲久
慶應丙寅七月有大風吹

倒岩石邪古社見引馬
塁之文字乃與
持統帝行幸事符併
思則確乎不可疑矣
羊猶霧消一時花罪
性素頑人之子若尊何名

贈正一位大相國家康肖像

縮臨德川某氏藏幅國
芳洲四弘



參河風土歌

國の褒を三河の縁へ
灘鶴ゐる矢作男川り豐
川と二ちぐ社河乃玉西

越。流れ出る所を矢作川おのづ
から二河とよべるゆへなり
たゝん東は北より山多く。
南はうゝゝより海に北
の境ふ山脈乃つゝるゆへ

義濃信濃筑摩乃縣と
岐阜郡の支配ふ地にて
南は尾張乃知多郡相
あゝび。伊勢の海へとゝ
ぢ。伊良湖と入る大

岬。西は尾張と境を川
乃流きに隨ひて東に
隣る遠江國敷地ひの
橋あり。橋は舟橋なり
濱松乃縣の支配乃邨

村。西は境のなぎさ
より東は海に橋は伊勢
凡の幅は十七里。南の海
に突いる。伊勢の宮より
加乃方。伊勢に渡る山を

地形は廣くそのあひだ
三十里餘なれどいつしも西ハ
次第に狹くして幡豆乃
形の濱なるまで凡八拾
十五里よりおれば國内乃

地勢も嶮岨のあまぞ地
味もまた肥磽一のそりてうこと
丘き碧海や幡豆は平
地ふく麥候暖和ゑ地味
あつく五穀ゆたかなり

よく海に漁猟乃ちその益をもつて多く豪富豪農や富商のたぐひ家をなして早く開化に進めり。北と東は岩りてはけ

し山の奥ありて宮家匠く地も瘠せて田畑乃熟うすけ難農自然歩行の遠くして頑固の風俗なほつよしも匠ことに設る小

学のをしへの至盛なる
日こそ開化なりおもむき
人の業廣や風俗乃自
然と地味なるよりあり
よりて一のしるべなるべ

人氣朴素なる恥を知り信
義の堅き風俗この邦なる
摂海加茂潟田源美濃播
豆や八名郡寶飯と設樂
郡八つにて三河の大名乃

抜の國府を居ちいの賓
飫郡ゝつまむらし乃府
ゝあまべ乃に抜の名を
ゝ乃りしところ八郡ゝ郡
數を。一千四百と九千を賓。

八の大區ゝ區を一長ゆく。
加茂ゝ設樂乃十二村割
きて併せて八大區九をで
ゝ海ゝ十の區ゝ額田を
きて十一を幡豆の郡

小十二寳飯茅十三ヶ設
ふまて八名ナ四に十五
區ヶ渥美ことけぐむるを
うちて分一小區乃數
多く草高四拾七萬ぶ。

二ヶあるりに反ぶ八四万
三千六百ぶ五十貳町ヶ三
反餘納むる稅乃大梁ヶ
十七萬ヶ多ひまり戸數八
壹十壹万ぶ四千ばりの

人口ハ四拾八萬八千餘。
中ハ三百石ハ士族の家
ハ拾くとも護民の權乃
解しハ浮食奉養ハ
身ハ愧て禮をうる

農商ハ業こゝ家乃栄
りて生ハ遂るのをもる
たまゝ茲ハ小山ハ數多
き中ハ也とけ名山ハ。
石巻山ハ鳳来ハ

持統天皇乃。行宮の所迄
てふ宮路の山や大雄の命
ここせ市恥とて皇子
在坐り猿投山奉川
渡海ふ門直ふ境て

嵩瀬の山あるくて毛ふ
ふ乃名山てふく拾て
河てふ三河ふ國の名て
つ〜大汗ふ一乃矢作
川むつ〜東方の考菅ふ。

征矢なんと日本武尊よ
矢矧しに西部とぞ。矢矧の
川の源は。大多賀より出る
山水と信濃より山にながき
落る二つ乃川の一節ふ。

矢作橋新古之圖

あゐて流れの河廣く岸驛なり其西ハ矢作乃橋の名高き東海道一乃橋あり此神田の山より出る水なり矢橋をて海へ

入海。大河の一乃豐川より。
ひとつの一乃大河とは。額田
郡なる山より出て。矢剱より海
る大平の河乃ふなぐちなる
三つのたゝん。はるゝ亂離

の世あもぐ。南は北より
朝廷なる。はるは吉良と。細
川なる。茲に割據の生なる。
新田の裔乃世良田氏こゝ
より始りて。春親なる松平

左衛門冒はより。日こに威名は燦て。八世の孫乃家康公。額田郡は岡崎ふ。生まれて天の下。四方乃國内なたれきもめ治ひて東照宮は崇めて徳川はこそよ起りてはぎく。世を治めるそのはを。細うよ巻く藩この封土ありしも悪く。版図なは

免ぜらるゝ。其後併せて保護せらる。額田の縣を岡崎と。設楽郡は一戎程も形く。吉田の郡を併せ。其後土地廣くて

人民不仁の輩多く。人々窮困と。源義とハ名設楽四郡の事務を扱つる。支藩戎源義乃越前守設楽貞通て人民を綏撫

乃區域を接す。たゞ
あるのみ。大中小の學
區を國中に設く。各〻定員
おのせらる。二の大學乃廿
區内。七の中區を刈谷に。

八の學區五學區を設く
形の城下。十乃中區を
豊橋に。位置を定めく
小學ハ。數百の校の日を增
て。凡四民を抑なへて。六

歳より満てで男女とも他
事にならるを馳さるを恥く。
人間等道の法書數朝
夕たゆむ怠るを家を
ちゝて産業を昌り

さるのたゞめなり第三
管は雑墓の分を管を
要橋に常は備への兵隊
を廣民保護乃爲とたん。
扨東路戎り道ふ驛

こゝ絞数こまゝ。池鯉鮒の
駅や岡崎こゝ。藤川驛
や赤坂ゝ。御油の宿より
豊橋乃驛をこゝて二川
ゝ。花がめくに達する。

人力車ゝ七百餘。ゝべての
物を運輸する。通運會社
や郵便乃局ゝ。器業
橋や。赤坂池鯉鮒ゝ。
より。中ゝ。金の換せ

すゝ。豊橋ゟ一里ほどゝ。か
ぎりて外乃羽川や佐
油ゝ二川枝道の田原
羽毋ゟ大坂ゝ足助ゟ
川ゟ津ゟや大津大沼

鍛冶屋敷刈谷西尾ゟ畠
村西の邦ゟ新城に乃
ゝの局乃備ゝて都て
公私のたゝりよく電信
局ゟ迄ゟ橋ゝ設ゝらき

てら書を墨すりたちまち
こゝも通ふ〳〵しやまと撥
芝我信濃や偽往来の
人ゝ名畑を左よ打きて
岩津村菜原九久尓大

島や足助の川武者
和の山路を攀て信濃ふる
根羽根の村よ通る〳〵
偽無宮乃名色ハ遊稽
西尾に名高や羅母州

谷より田原とて。一の孫て云
城乃弘なきば。今より百千
の家なるべ。四方より程人
あつまり。新城是助ハ
信濃路へ往来の馬や

牛馬之物貨乃多く
集りて。富商の多き土
地なれば。こゝ市町
繁華なり。海辺より搗
ち連なりて。三河より一乃

産こまた綿や木綿の
いとおりも。富饒なる土地の
大濱も四方より船くあつ
まりて諸おろして物品を
はこぶ湊ぞ旅たしき事

坂湊ハ大濱やより四一里
ハ前芝や。鹿島御馬乃
湊も。輸入輸出のたより
よく。ハ六ハ國なる土地ハ
や。尾張の知多と伊良湖

ゝの中よりたゞよゝ佐久の
ゝ海周匝三里ばかり中よ
千俵ばかり海士の悪く漁猟
を産て毋なる涙りこゝそ
出る海鼠腸をつゝとめづら

しき産とゝや岬角を
岸よ海の海きゝ端田ゞの
鼻や内海ばかりその口ゝ
岸海よ伊良湖乃崎や
甘ゝ乃ゝ岩角おかく

行通ふ船の難所と云
傳へ宮飯は郡は大塚は
ゝばらゝあして海中に
亀ゞ岩ゝゝゝ大きゝ
甘傳ゝ土人ゝ

名もしらぬ暗礁の多
き處のあき處ゝゝ注
目は布袋の三ゝとして
遥こうる書くこゞ屋ゝ
ゝの芝濤の怪屋ゝ閣

色迷てゆたかなり。
池沼ところ〻多の言紀。
陽豆と額田より跨つて。
関匠一里の養池や是
ふたぐきゝ一池も油ゴ

淵ふ芦池と瀑布も
廣澤山寺と龍脇滝の
村〻落つ数多の瀑布
や厳峯乃峯より落る
しら滝や滝谷峠乃

蘭より。横たはりて流れ
落川。不動の滝や大野
よりの。流れ澤布もおほし
名の。不動の滝よ七ぞ
ぞ。滝乃阿寺

滝。ゆゑ鳳来の山おほ川。
妙法院の名も高し。言
く名處の。佛ゆゑ。て。東
方の。拾ふ業なれいこの。
ゆや八橋よ。ゆゑ感ゆる

蒼々たる正法の法り
勅撰乃式社中にも小社
のゝ二十六座を載たる
ものゝ大社乃数ゆゑ
一の宮なゝて國幣社班

若の神社も大已貴ぐく大社も縣社にて搭扱知立社二柱なり郷村社崇めゝる郷社村社の神にて氏子を守護を

なり。其色黒玉にして
よく理佛に似たる事驚く
巨刹なる浄土乃大樹なる圓
光大河の生流を汲る勢
誉は冥加や。藥師

あ豆の國来寺。平地乃
城ふ様へる墓を開く玉
乃右宗寺。無穢弾は
悟なるや。義昌無墓の
妙誉寺。大濱ひろよ妙名

奇日静井基の長満る。
ゆて出國乃名産と四方
ゆ伝へて名高きは綿
ゆ太綿伝家にて蘊
個の産出世二のしよ者。

蔵よりもく玉布産物。古
く貢の神市夜ゆ宮殿
の形乃赤引ゆ糸ゆて
織しるとや。今年
生糸ゆ産んとて石形

石炭名合形に鐘乳石
や花剛石ちりの石毋
や陶器類干海鼠こゝ腸
所乃味噌ゝ答度ハ
海多く海苔紙茶や

綿糸ゝ酒醤油や素
麺糸干鰯漆ゝ石炭
佐ゝ農ゝ國ゝ本租
税の法ゝ佐ゝ苛
酷乃事ゝ角ゝ民の

艱苦我敢せず。田畑乃
貢買許ちまて輕重
寛ものの偏頗なく。至公
至平なる法の定まるを
こゝ〻に万世田畑乃

称も反ものや。耕地をこの人
て地の名をも。八つ分ちく
皇宮地。神地。除税の三
つの地ゝ地税ゝあるべ
地等なく。官廨百ゝ官

用地ニ有之私有の地或
ハ開て永久私有の證
と與へ地券を布き
て租稅を地價の百分三
ヶ人民の交渡を任

義を堅く相守り後日
違約さるべき證書
帳簿ハ証券乃印紙畧
式の制あるべし粗酒の事
ハ追て違式と達す

の慣例なり。人の權利を妨げまた身乃健康を保つ信なり。八十三の条ともなりて。こゝろに拳て諭しあるを。深く心に留めおき

て。かりそめに犯さて事なるき。篤く

朝意を體し。謹めて人

多の道理よく守り家

業にたゝめておこたる。

新年紀元や天長の音
いとて三日祝日や元始
神嘗祭嘗会宮会雪
神武　孝明の帝祭
つとの日ごとゝは國内

賑ひて祝さゝく四方よ
このゞ屋く日の旗を高く
掲げてのゝぎく治ふ
御代をいとへ人

三河風土歌

明治八年十一月五日版權免許
同　九年　四月　刻成
愛知縣管下
參河加茂郡擧母
編輯人　田中正幅
出版人　同　額田郡岡碕
近藤巴太郎

愛　知　県
1103282130